



# 学校だより

佐渡市立両津吉井小学校

平成29年5月18日

<5月号>

## 熱中・感動・達成感のある授業を目指して

校長 高橋 喜一郎

6年生の社会で、縄文時代と弥生時代の暮らしの絵を見比べ、2つの時代の大きな変化について気づいたことを発表し合いました。「着るものが変わった」「田んぼができて」「米を脱穀する道具がある」…と続く中で、大きな変化として米作りが始まったことに着目しました。子どもたちは、「米づくりによって人々の暮らしはどう変わったのだろう」と「問い」をもち、調べ始めました…。

	合計	日数
<u>えみこ</u>	15周	5日間
<u>けんじ</u>	20周	5日間
<u>ひろみ</u>	20周	4日間

5年生の算数で、「(左の3人の中で)誰が校庭をよく走ったと言えるか」について考えました。合計が同じなら日数で比べられますし、日数が同じなら合計で比べられます。ところが、走った合計も日数も違うえみこさんとひろみさんはパッと見ただけでは比べられません。子どもたちは、「このような場合、どうすれば比べやすいか」と「問い」をもち、話し合いを始めました…。

3年生の音楽で、リズム打ち(手拍子)をしていました。子どもたちは、習ったばかりの『春の小川』だろうと思い、手拍子を打っています。ところが、授業者から『春の小川』ではありませんよと言われ、「じゃあいったい何の歌なんだろう」と「問い」をもちました。そして、はっきりさせるために音階の必要性を感じ、バラバラに置かれた音階カードを、曲になるように並べる活動を始めました…。



最近の授業から、子どもが問いをもち追求していく授業を紹介しました。両津吉井小学校は、立志教育を推進しています。子どもたちに、志を立てる力・志を実現する力を育む教育です。そのためには、授業において、子どもが「問い」や「願い」をもち、熱中して粘り強く追求し、感動や達成感を味わうことが重要です。「問い」や「願い」は、子どもの学びのエネルギー源であり、子どもの主体性を育みます。子どもの「問い」や「願い」をエネルギーとして、仲間と協力して課題を解決していくこのような授業が、変化の激しいこれからの社会を生き抜いていく力を育むと考えています。

子どもたち一人一人が志を立て、志を実現する力を高められるよう、私たち教職員一同、研修を通して自ら鍛え合いながら、質の高い授業を求めて参ります。